

鴨川市住民協議会「第 1 回かもがわ市民会議」議事要旨（全体会）

日時	2020 年 7 月 26 日（日） 13 時 00 分から 15 時 00 分
場所	鴨川市役所 4 階大会議室
その他	参加者数 63 名

概要

1. 挨拶
2. 講義等
 - 「かもがわ市民会議」開催の趣旨について
 - 住民協議会の意義と概要について
 - 鴨川市の現状について
 - 質疑応答
3. 分科会
4. 事務連絡

1. 挨拶

- (1) 鴨川市長 亀田郁夫より挨拶。
- (2) (一社) 構想日本総括ディレクター 伊藤伸氏より挨拶を頂いた後、各分科会のコーディネーターから挨拶を頂いた。

2. 講義等

- (1) 「かもがわ市民会議」開催の趣旨について
資料 1 に基づき、市事務局から説明があったもの。
- (2) 住民協議会の意義と概要について
資料 2 に基づき、構想日本 伊藤伸氏から説明があったもの。
- (3) 鴨川市の現状について
資料 3 に基づき、市事務局から説明があったもの。
- (4) 質疑応答

Q：自分が意図していた分科会でなかったが、事前に考えていた意見等を発言する機会はあるか。

A：分科会の割り振りは、事務局側で機械的に行わせていただいた。予めお考えになられた意見等は事務局にいただければと思う。その後、各分科会のコーディネーターに情報共有させていただく。(事務局)

他の分科会に関する意見もいただきたいと思う。今回についていえば、アンケートに自由記載欄を設けているため、そこもご活用いただきたい。また、別紙で作成いただいても問題ない。次回以降は、アンケート欄も工夫する。(構想日本)

Q：前期 5 年計画の評価について知りたい。

A：評価の資料は膨大の為、本日配布すると情報量が過多となるため、控えさせていただいた。
現状把握は次回としているため、出し方は検討するが、各テーマに合うような資料を提供したいと思う。（事務局・構想日本）

Q：他の分科会に関する意見の提出は問題ないとのことだが、WEBでの提出は可能か。

A：インターネット、メールでの提出も差し支えない。（事務局）

Q：提出された意見とその回答について、委員全員が共有できるような公表の仕組みを検討していただきたい。

A：議論の場において出た意見については、構想日本がとりまとめを行い、資料を作成するため、その資料は全員に共有されることは承知いただきたい。個別に市に提出のあった意見についての共有の方法は、市で今後検討する。（構想日本）

Q：4つの分科会を俯瞰して見た意見は、どこにどのように表れるか。加えて、基本構想を改定する必要も出てくるかと思うがいかがか。

A：4回目までの会議は、各分科会で提案書を作るが、最終回となる第5回は、市から上がってきた総合計画の素案について議論を行う。また、各分科会の議論のレベル感の調整、横のつながりの確認などは構想日本が行う。（構想日本）

現在の基本構想は非常に幅広いものとなっているため、皆様のご意見がそこから外れる可能性は低いと判断したため、基本的には基本構想は改定しないが、ケースによっては検討させていただきたい。（事務局）

Q：傍聴者が発言するチャンスはあるか。

A：次回以降、傍聴者用のアンケートを用意する方向で調整したい。また、分科会の場において、時間が許せばになるが、コーディネーターから意見を求める方向としたい。（構想日本）

3. 分科会

各分科会の議事要旨については、別添の資料を参照。

備考

第2回：令和2年8月22日（土） 13:00～16:00

第3回：令和2年9月12日（土） 13:00～16:00

第4回：令和2年10月17日（土） 13:00～16:00

第5回：令和2年11月29日（日） 13:00～16:00

鴨川市住民協議会「第1回かもがわ市民会議」議事要旨

班	第1班（働きがいのある仕事づくり）
コーディネーター	石渡秀朗（構想日本特別研究員）
ナビゲーター	なし
説明担当者（自治体）	農林水産課（田中係長）
日時	2020年7月26日（日） 15時00分から16時00分
場所	鴨川市役所4階400会議室
その他	参加者数 15名 欠席者数 8名

趣旨・概要

- ・自己紹介
- ・テーマ「働きがいのある仕事づくり」について思うこと（論点整理）
- ・まとめ（次回に向けて）

主要な論点

1 自己紹介

- ・氏名、住んでいる地域、テーマ「働きがいのある仕事づくり」について思うこと

2 テーマ「働きがいのある仕事づくり」について思うこと（論点整理）

論点 地域特性及び地域資源の活かし方

- ・良くも悪くも医療、福祉が充実している。
- ・医療、福祉分野での求職がある反面で、職種選択の余地が無い。
- ・介護事業の展開に当たり、環境面での好条件が揃っている。
- ・県北と比較し、給料レベルが良いとは言えない。
- ・豊かな漁場がある。（新鮮な魚、房州ひじき…）
- ・「地消地産」の考え方で。（市内で消費するものは市内で作る、そこに雇用が生まれる）

論点 仕事に関する需要と供給のアンマッチ（不一致）

- ・市内に勤め口がまったく無い訳ではない。
- ・情報がきめ細かく提供されておらず、職を求める方々に情報が届いていない。
- ・いつまでもハローワークにお任せでは難しい。

論点 目的（対象）にあった仕事づくり

- ・若年層へは、生活のため、家族のために「魅力があり稼げる」仕事づくりを。
- ・高年層へは、「人のため」になる、また「生きがい」になる仕事づくりを。
- ・目的（対象）によって議論を分けて行う必要があるのでは。

3 まとめ

- ・次回会議の進め方
まずは参加者の発散（意見出し）が必要であり、様々な方向から意見を徴したい。
すべての参加者に最低1回は意見を出していただきたい。
- ・次回に向けた準備
大山千枚田「棚田オーナー制度」の資料（農林水産課）
プロジェクトの効果的な進捗のため「課題管理表」の作成（事務局）

委：仕事の関係で市外から 40 年前に引っ越してきて、現在は西町に住んでいる。働きがいのある仕事というのは、当時は自分がというものと雇い主側もわかっていて仕事をしていたと思う。モチベーションを高めるような仕事の与え方、受け取り方を議論する場と感じた。

委：一昨年、市ヶ谷の防衛省を定年退職後、再雇用の選択肢もあったが都会勤務が嫌で鴨川へ移住した。シルバー人材センターに申し込んだが制約があり採用されなかった。現在専業主夫。今年 10 月で 63 歳になるが、新しい趣味としてサーフィンを始めた。経済的にはサーフィンショップに貢献していると思う。

委：70 歳までは働いていたが、現在は畑仕事をして、自分が食べるだけではつまらないということで、みんなみの里に出品している。現在 80 歳になった。

委：小湊で生まれ育った。現在は曾呂に住んでいる。年金生活で無職である。

委：小湊生まれの小湊育ち。地元で勤めたいと教師になった。長狭高校で 15 年勤めた。同校では就職担当をしていたので、鴨川の就職事情には少し詳しいと思う。移住者と交流しているので、その方たちの話もできればと思う。

委：天津でひじき加工している。このテーマに携われて良かった。仕事がないというよりは情報が少ないと感じている。仕事をしたいという人も、雇用者を探している人もいるので、情報が上手くマッチングするようになればと感じている。

委：房日新聞のコラムに、週 2 回 9 年間寄稿していた。地方創生をテーマに何度も掲載したが、今になると一体あれは何だったのかと感じる。結局、市民が関わるべきと思って市民会議に参加した。仕事といってもお金や生活を支えるという面だけにこだわらず、生きがいとしての側面も大切だと思う。

委：大学卒業後、最初の赴任地が鴨川だった。シーワールドしかない場所というイメージだった。当時は育休の仕組みが不十分だったこともあり、出産を機に仕事をやめた。子どもが独立したので、塾での数学講師として仕事を再開した。今の仕事は楽しい。生活の為に勿論お金は重要だが、人生のステージによっては、仕事にはお金以外の生きがいなど別のものを見いだしたい。

委：東京で 20 年程家裁をしていた。12 年前に実家に戻った。スナップエンドウや甘長唐辛子などの野菜を作っている。

委：年金生活の 71 歳。夫婦と子どもの 3 人暮らし。働きがいのある仕事ということを考えると、人のため、社会のための楽しい仕事が増やせばいいのかなと感じている。鴨川は介護関係の条件が揃っているのではと感じているので、鴨川の空気や魚、野菜など鴨川の地域性を高めることが必要ではと思う。

委：病院の運営などのキャリアを生かして、災害、病院、医療部門のアドバイザーとして全国の大学や病院を訪問している。三浦市の遊歩道開発にも参加した。

委：医療・介護関係の仕事をしており昨年退職した。現在、何らかの役に立つと思うので、生きがいのある仕事を探している。

担：農地の区画整理や圃場整備の促進を担当している。地方創生の事業の一つであるみんなみの里のリニューアルにも携わった。農林水産業の非常に厳しい状況を受け、就業者がかなり減っている。

担い手づくりも思うように進んでいない。鴨川のテーマの一つとして、都市と農村の交流を進めている。そういった面がより一層広がってほしいと思っている。

P：市役所に勤務して20年、その間で同級生の7~8割が市外に移り住んだ。自分に見合った仕事が市内に無いというのが大きな理由の一つと思っている。企業誘致の観点だけでなく、後継者問題などと併せて考えていきたい。

P：大学を卒業し鴨川に戻ってきた。現在3年目。鴨川市は、学生は多いが若い働き手は少ない印象。若い人が魅力を感じるような仕事・雇用について考えたい。

事：秘書広報業務を担当している。生まれ育った地元に貢献したいという思いから奉職した。実のある分科会になるよう事務局として努めたい。コロナ禍と5G、都心からの距離という要素からリモートワークが仕事づくりのキーワードになると考える。

コ：ホワイトボードに、次回以降の論点になり得るキーワードを記載した。勿論、記載したものだけが論点ではなく、色々な論点があっていいと思う。

仕事に関する鴨川市の状況は、全体会で配布された資料3をご覧ください。自身が作成した、千葉県内6市と神奈川県内5市を比較した資料の解説をしたいと思います。

ハローワークの有効求人倍率をみると、4月時点で鴨川市は1.0で、現在はコロナの影響で下回っていると思うが、必ずしも都会の倍率が高いということではない。

生産年齢人口の割合を見ると、鴨川市は52.0%で、約半分が生産年齢人口にあるということになる。

市内就業者・通学人口の割合を見ると、鴨川市は49.6%で、やはり約半分が、市内で就業もしくは通学していることになる。

農業の就業者割合を見ると、鴨川市は2位となっている。

漁業の就業者割合を見ると、鴨川市は3位となっている。

情報通信業を見ると、鴨川市はワースト1位となっている。

宿泊・飲食業、医療・福祉を見ると、鴨川市は上位に位置している。

時間があれば、次回までの間にお目通しいただきたい。

コ：自身は、テーマを聞いた際に、鴨川市でこういった雇用機会を作っていくかという勝手なイメージをした。かなり難しいテーマだと感じたが、先ほど「仕事はお金ではなく、生きがい」という意見をいただいて、非常に勇気づけられた。色々な自由な意見があっていいと思う。勿論総合計画を作るのが目的ではあるが、「べき論」の議論は面白くないので、どのような意見でもいいと思う。それこそが委員を無作為で選んだ意味であると思う。最終的にどのようにまとめていくかは市の仕事であるので、多様な意見をいただけたらと思う。

また、過去の経験から、参加する方が段々減っていくのは非常に寂しい。自身の力不足があると思うが、各回が有意義な回になるという発想で是非ご参加いただけたら大変ありがたい。

この会議は、我々構想日本や市役所の職員が作る会議ではなく、皆さんが作っていく会議であると思っているので、出席していただいた場合には必ず1回はご発言をいただく。時間の都合で複数回の発言は難しいかもしれないが、発言の機会の際には自由なご意見をいただけたらありがたい。

コ：今日の場合には、現在仕事をしている方、仕事をしていない方の両方がいる。仕事をしていない方の中で、人のため・社会のために役に立つ、楽しい仕事をしたいという、生活のためというよりは、生きがいのための仕事についてご意見をいただけたらと思う。

委：データにもあるように、医療・福祉に関わる人口が他市より多いことは、いい意味でも悪い意味でも生きがいに関係しているのではと思う。

資格を持っていけば引く手数多だと思うが、無資格の若い人たちの職業の選択の余地が少ないことでもあると思う。また、給与レベルも都市部と比べたら低く、若い人で医療職でない人は生活に苦労している印象。

委：経済というと、全国や他地域に目を向けてしまいがちだと思うが、需要があるから経済であって、鴨川市独自の経済を作るという発想はないのかと思う。地産地消と言うが、逆に「地消地産」、地域で消費するものは地域で生産するという考え方をすると、仕事が生まれると思う。

コ：鴨川で出来ることは鴨川でという考えと思う。地産地消と言うと、農作物のイメージがあるが、エネルギーなども含めて考えることで雇用を生んでいくという発想が必要ということ。

委：楽しく仕事はできているが、子どもが保育園に通っているため短時間の勤務になってしまうことから、生活費として十分な収入を得ているわけではない。

コ：市内就業者・通学人口が約 50%の理由を考えると、都心に通勤が難しい条件、言い方を変えれば地産地消をする為の条件が揃っていると言える。
過去、TV 番組で鴨川を舞台としたひじき狩りの特集が放送された。これについてご意見いただきたい。

委：天津地区・小湊地区の約半分の者がひじき狩りに関わる。そのため、皆誇りを持ってやっている。

委：昔は学校を休んで参加してもよかった。今は学校単位で授業として携わっている。

コ：鴨川の地域資源をこのテーマにどのように活かしていくかという観点があってもいいと思い、お伺いをした。
ご質問等あればお伺いしたい。

委：仕事は、英語で言えばワーク・タスク・ジョブとあるとおり、仕事の質は色々あると思う。生活の為、生きがいの為など、それぞれの目的があり、その目的には背景があることを認識して議論していきたい。

コ：多様な目的があり、その目的に合った仕事というような議論もできればと思う。

次回の分科会に向けた準備

次回の分科会の目標

- 3．まとめに記載のとおり

次回の分科会に向け準備する資料等

- 3．まとめに記載のとおり

備考（その他、記録すべき事項を適宜追加）

特に無し

鴨川市住民協議会「第1回かもがわ市民会議」議事要旨

班	第2班（生活を支える交通）
コーディネーター	熊井成和（構想日本特別研究員）
ナビゲーター	なし
説明担当者（自治体）	まちづくり推進課（太田係長、森主査） 福祉課（鈴木課長、渡辺課長補佐） 都市建設課（安田課長補佐）
日時	2020年7月26日（日） 15時00分から16時05分
場所	鴨川市役所4階大会議室
その他	参加者数 18名 欠席者数 6名

趣旨・概要

- ・自己紹介
- ・公共交通の皆さんの思い
- ・まとめ（次回に向けて）

主要な論点

1 自己紹介

- ・氏名、住んでいる地域

2 テーマについて普段感じていること

論点 市民が市内を移動するための交通手段

- ・路線バスの利便性（本数、時間）
- ・長狭地区の乗合タクシー
- ・免許証を返納した際の移動手段
- ・新たな交通手段の可能性（IT技術を活用した未来型タクシーなど）
- ・車社会が成り立っている鴨川市の現状
- ・道路の維持管理の要望
- ・生活道路の渋滞

論点 市民が市外に行くための交通手段

- ・アクシー号、カピーナ号、木更津線の利便性（本数、時間）
- ・JRの利便性（本数、時間）
- ・君津ICまでのアクセス
- ・車社会が成り立っている鴨川市の現状

論点 来訪者が市内を移動するための交通手段

- ・道路の渋滞

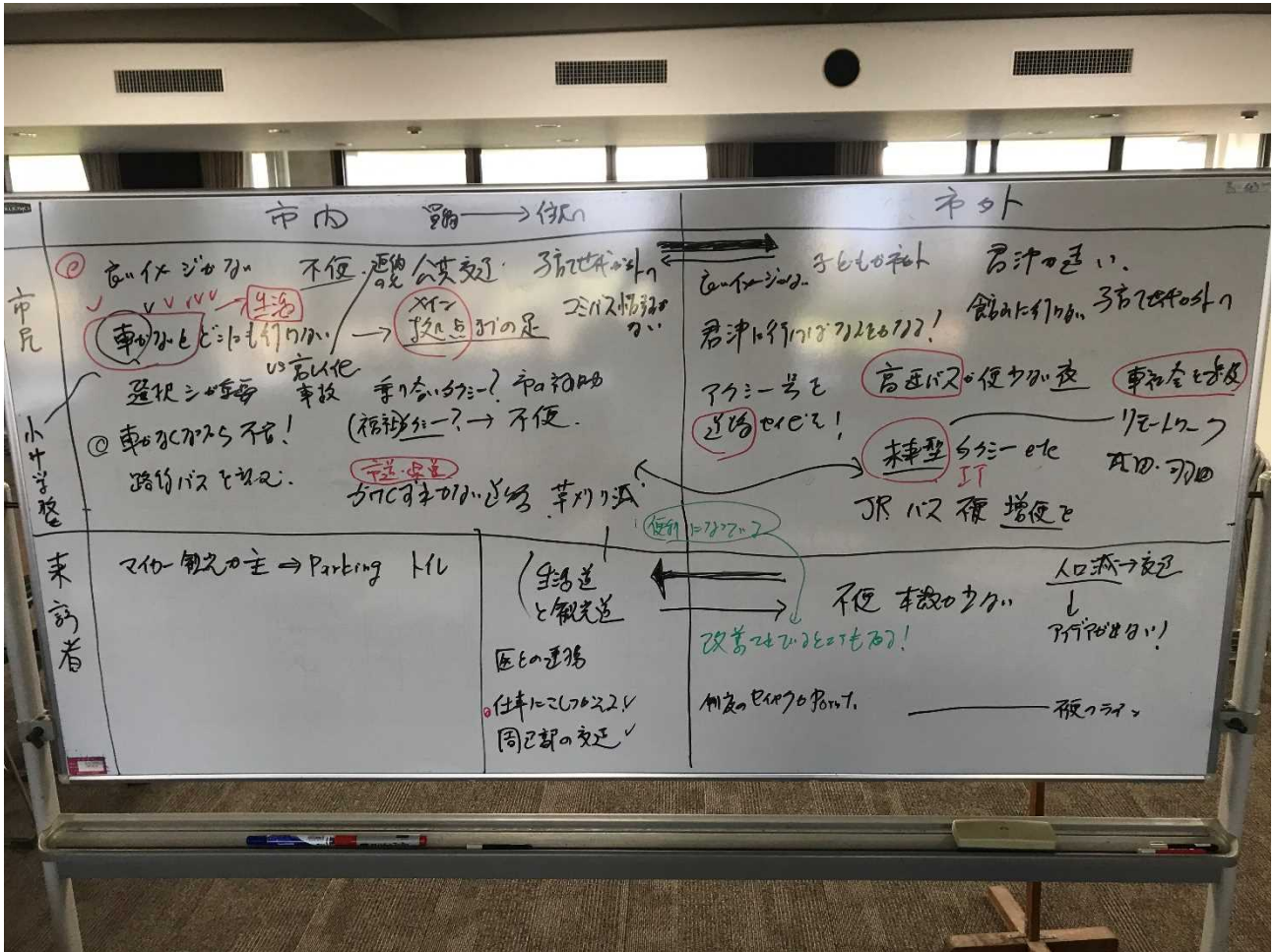
論点 来訪者が鴨川市に来るための交通手段

- ・アクシー号、カピーナ号、木更津線の利便性（本数、時間）
- ・JRの本数
- ・自家用車での来訪（駐車場）

3 まとめ

- ・次回会議の進め方
頂いた意見を集約し論点を絞ったうえで、論点ごとに議論を行う。
- ・次回に向けた準備
他市事例を調べて事前送付（事務局）

【ホワイトボードの写真】



要旨

- コ：館山市を退職し、構想日本との縁からコーディネーターを務めることとなった。
今日は自己紹介とテーマに関して一言を頂くが、時間が短いため、いつもより他の方の意見に耳を傾けてほしい。また、アンケートの他に自身が作成したシートをお配りした。そのシートに記入いただいたことも大事な意見になるのでよろしくお願いします。
- 委：市政に参加できる機会は少ないので、参加したいという思いで参加した。
- 委：乗客のいないバスの運行に補助金が支出されていることに問題があると思う。以前に市に対して交通関係の要望をしたこともある。
- 委：介護事業を行っている。車に頼らない生活をしているが、仕事上不便さを感じる
- 委：鴨川市のことを知りたいと思い参加。車社会前提の交通を考えたい。
- 委：市の未来像を知りたい。
- 委：勝浦の海の博物館に勤務している。
- 委：陸の孤島である鴨川市を改善してほしい。

委：色んな方の意見を聞きたい。

委：道路の改善を要望したい。

委：グループホーム勤務。地域のために何か役に立ちたいと思い参加。

委：普段は木更津で生活しているが、親の面倒を見るために鴨川市に来る。

委：電車・バスの本数が少ない。

委：接骨院をしている。行政は市民を見ているか確認したい。

委：月に何回か東京に行く。

委：自営で清掃業をしている。他の方の意見や考えを聞きたい。

委：鴨川はバスも電車も本数が少なく不便。

委：亀田病院に勤務。鴨川市のみんなが今より良い生活ができればと思う。

P：税務課所属。学生時代に路線バスを利用していたが、現在は自家用車での移動がほとんど。

P：経営企画課所属。7年前まで鴨川市の西条地区に住んでいた。基本は自家用車で移動するので、公共交通を利用することはほとんどない。

コ：市民の市内と市外の移動、来訪者の市内と市外の移動というパターンを考えたい。

委：テーマに対し積極的ではない。非常に不便。義理の母も利用しない。使いづらい。子どもが市外に住んでいる。高速のインターまでも遠い。いいイメージがない。

委：人口減。鉄道本数も減。いい解決策が浮かばない。

委：車がないと何もできない。君津まで出れば何とかなる。君津まで出る手段がないのかと思う。

委：今は車で好きなところまで行ける。免許を返したときにどうしようか心配になる。鴨川はJRも高速バスもあるので、便利だと思う。

委：車があるので不便さは今のところない。現在行われている実証運行中のデマンドタクシーの範囲が狭く不便。使い勝手の良いタクシーがほしいと思う。横浜行き的高速バス（長狭経由）の実証実験もあったが、本格運行は難しいのか。県道88号線の一車線通行の改善をお願いしたい。

委：路線バスの維持をお願いしたい。アクシー号の特急便の増をお願いしたい。君津ICまで30分程度で行けると良い。災害に強い道路も要望したい。

委：今は自家用車で何とかなるが、80歳の父がいるが、免許を返納した後が心配。道路について草刈りなどの管理を地域も含めてお願いしたい。

委：館山に行く県道が、がけ崩れで1車線で通行している。早く2車線に戻してほしい。

委：80代の親が車を運転できない。その面倒を見に鴨川に来る。交通の整備は難しいと思うので、移動販売でもあれば利便性が上がる。

委：免許を持っているが、都内に行くにはアクシーを利用している。アクシーについては、館山のよう深夜便の設定がほしい。

委：居住地区では、あまりバスを利用する必要性がない。出かけるときに君津のインターまで30分くらいで行けると良いと思う。無人タクシーの運行など未来型の手法が考えられる。

委：JRとバスで東京までの行くときの不便さを感じる。子育て世代の方たちは、2時間かけて東京まで通学させられず、不便だから子どもが中学生くらいになると東京に行ってしまう。

委：生まれも育ちも江見。自分は高速バスがあるからすごく便利だと感じる。東京までの利便性は高い。電車（特急）がなくとも高速バスがあれば十分。自分の親も後期高齢者となったが、事故を起こしてからでは遅いので免許の返納を進めるべき。観光客はほとんど車で来る。その人たちの駐車場・トイレが整備されていればと思う。

委：東京と比べてしまう不便とを感じる。電車の本数も少ない。実はバス停の場所も知らない。リモートワークに向けて羽田から鴨川、成田から鴨川のアクセスをよくするべき。

担：バス停の場所などはHPやパンフレットでお知らせしている。

委：生活道路と観光者向け道路の区別ができるといい。昨日もイオンの前で渋滞が起きていた。

委：鴨川市民はほとんど車を使う。一方で高齢化による高齢者ドライバーの問題もある。免許の返納に伴い家族の支えが必要である。免許返納者が困らないように送迎サービスなどがあると良い。

委：来訪者にとっては便利になったと思う。市内の交通は、高速バスや特急電車など便利である。市民のための交通に改善点が必要。免許返納者のフォローがない。市内のバスは市の補助金が多く投じているにもかかわらず空気を運んでいるみたいだ。他の手段を考える必要。これらに関しては市に提案を行ったこともある。ここで議論しても良い案は出ない。他の事例を研究して紹介したほうが良い。提案した文書をここで出してほしい。

委：運転を1年くらい控えている状況。車のない生活をしているが、車がないと仕事ができないと思う。バスの本数が少ない。買い物などの生活面は合わせられるが、仕事ではそうはいかない。館山で会議があるとかなり不便だと感じる。夜遅い会議は会議に参加できない状況もある。公的なところで生活弱者の方たちの生活を確保していく必要がある。

委：車社会が成立している。個人的には不便を感じない。交通機関に合わせた行動を選択している。便利と不便を考えるとどこかにその境界があると思うが、一歩間違えると個人の贅沢・エゴになるので、贅沢とエゴという観点でも考えなければいけないと思う。車社会前提で政策を考えるのも一つの案で、民間企業の協力を得て、車社会のメリットを生かすことも可能だろう。だが、車社会は子どもたちにデメリットを与える。小中学生が雨天時に傘を差しながら長い時間歩くことの改善は行政しかできないと思っている。便利さを知らなければ不便さも感じない。皆さんの考え方次第と思う。

担：今日は大変勉強になった。

担：福祉に関係する部分では、高齢者の免許返納に関する課題を認識した。

担：2車線の県道が片側通行になっている状況は確認しており、県に早期復旧を要望している。
君津インターまでの道路については、早期開通を県に要望している。

担：今年度の公共交通計画に皆さんの意見を反映していきたい。

担：市内・市外ともに皆さんが不便を感じていることがよく分かった。大多数の方は、今は車があるから今は大丈夫だと感じているが、免許返納により交通弱者になった場合の対応を考えていきたい。

P：自分が免許を返納した時のことをイメージして、公共交通を自分ごととして考えて議論していきたい。君津市のデマンドタクシーの事例や他市の事例を調べて紹介したい。

P：最後にバスを使ったのは数年前だが、その時に不便さを感じたが、そこで思考は止まっていた。皆さんの意見を伺って、これからどうしたらよいかを考えるきっかけになったと思う。次回以降もよろしく願います。

コ：免許返納後、交通弱者になった時に不安を感じている方が多い。一方、ITなどを駆使しながら未来型の車社会を追求するというご意見もあった。未来型には、自家用有償運送も含まれると思う。これも一つの形として考えても良いのではと感じた。市外への移動に関しては、ICなど拠点までの交通に不便があるというものだったかと思う。
次回は本日出た意見、シートに記入いただいた意見を参考に、論点を整理したうえで議論していく。

次回の分科会に向けた準備

次回の分科会の目標

- 頂いた意見から論点を抽出し、その論点ごとに議論を行う。

次回の分科会に向け準備する資料等

- 他市の事例を資料として調製し事前送付する。
- 委員発言の提案書を次回会議前に郵送する。

備考（その他、記録すべき事項を適宜追加）

特になし

鴨川市住民協議会「第1回かもがわ市民会議」議事要旨

班	第3班（子育て子育て環境づくり）
コーディネーター	山根晃（公益財団法人足立区勤労福祉サービスセンター事務局長）
ナビゲーター	なし
説明担当者（自治体）	生涯学習課（石川課長、岡安課長補佐） 子ども支援課（石井課長、田中課長補佐） 学校教育課（三浦課長、谷主任指導主事）
日時	2020年7月26日（日） 15時00分から16時00分
場所	鴨川市役所7階会議室
その他	参加者数 14名 欠席者数 2名

趣旨・概要

- ・自己紹介
- ・テーマに関して一言
- ・まとめ（次回に向けて）

主要な論点

1 自己紹介

- ・氏名、住んでいる地域
- ・テーマに関して一言

2 テーマについて普段感じていること

論点 鴨川は子育てがしやすいと感じている方が多い

論点 それぞれの立場で考える「子育て子育て」

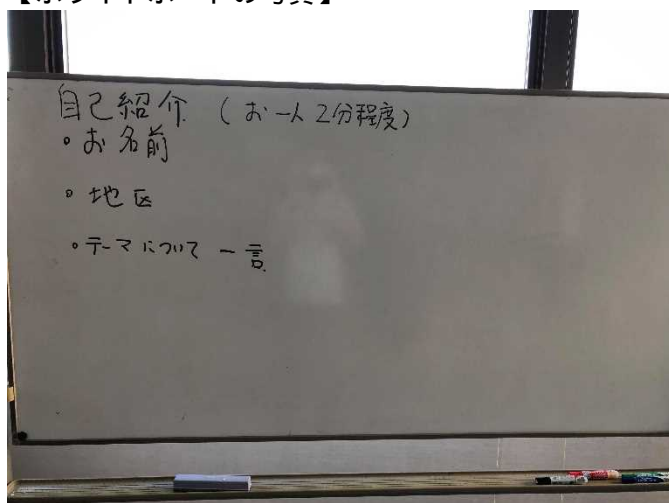
論点 子どもたちが将来、鴨川で育って良かったと思える環境づくりが必要

論点 時代の変化に対応した環境づくりをするためにはどうすればよいか

3 まとめ

- ・次回会議の進め方
頂いた意見を集約し論点を絞ったうえで、論点ごとに議論を行う。
- ・次回に向けた準備

【ホワイトボードの写真】



コ：16時までと短い、今日は自己紹介をしていただく。

自身は、足立区の職員をしている。小湊 100 人会議の時は子どもの貧困対策課長をしていたが、現在は、勤労福祉サービスセンターという子育てとは異なることをしているが、過去の勤続から、子ども関連の業務に携わることが多かった。

現実的な面や、金銭面など色々な条件を考えると、必要なことではあるが、実現できることなのかという視点で見えてしまうが、皆さんには日ごろから感じている自由な意見をいただきたい。

P：普段の業務は情報系と、テーマとは関係のないことをしているが、現在子育て中で、小学2年生と年長の子どもがいる。子育てをしている中で、気づくことや、考えることを皆さんで共感したり、改善できたらいいと思う。

P：未婚で子育て経験はない。想像の中の話になってしまうと思うが、様々な意見を聞けたらと思う。

委：高校を卒業して東京に進学・就職し、30年住んでいて、移り住んだ。子育て経験がないので、経験した方との温度差が出てくると思っているが、鴨川で育ったことに関して、すごくいい環境で育ててもらったと思っている。これから育っていく子どもたちにも、大人になった時にいい環境で育ったと思ってもらえるような環境づくりの回にしていけたらと思っている。

委：東京でコロナが流行ってきた頃、3月頃から、コロナ疎開してきている。夏休みなどに東京の子どもたちを連れてきて遊んだことから、自然が多くあるいい所と思っていた。永住してみると、東京との比較ができるのかなと思う。

委：神奈川県で高校の教員をしていた。仲間が、市川市で子ども食堂をやっている。勉強を教えてほしいとの依頼に応えて、週に数回勉強を教えに通っている。不登校の子どもに係わったこともある。鴨川に来て2年になるが、この街でも何か役に立てることがあると思うので、そういった点についても話し合えたらいいと思う。

委：孫が2人いて、3世代で同居中。子ども園への送り迎えをしている。実際にやってみると、核家族でない家庭においては、小学校に上がるまでの間は、各家庭で育てた方が良くと思っている。核家族では忙しくて子育てが大変なんだろうと感じている。

委：江見小学校に土地を貸している提供している。行政で31年勤務していたが、子育てについてはネガティブな意見しか出ないと思うけどよろしく願います。

委：鴨川で育ち、県北や東京で仕事についていたが、昨年戻ってきた。未婚で子どももいないため、今の環境を知ったうえで、どうやったら良くなっていくかを考えたい。

委：市内に居住するまでに10箇所近く引っ越してきた。子育てをしたことがないので子育てについてはわからないが、子育て環境については鴨川に来てから経験したことがあるので、意見が言えると思う。

委：1年ほど前に、築120年の古民家に移り住んだ。6月に結婚し、12月に子どもが生まれる予定。子育てはこれからやっていくことなので、不安がある。住居が山の中なので、子どもの送り迎えが大変そうだと感じている。

委：3年前に引っ越してきた。現在は亀田医療大学で教員をしている。鴨川は、自然環境があり、福祉と医療環境が整っているため、あとは子育て環境が充実していれば、とても住みやすく安心できる環境づくりができると思っている。

委：鴨川で結婚・子育てをした。大学生が2人と高校生が1人いて、ひと段落したと思っている。大学生になった子どもと離れて暮らすものと思っていたが、コロナ渦によるオンライン授業となり、自宅に戻ってきている。このまま、テレワークで行える仕事について、自宅にいてもらえたら嬉しい。

委：小学1年生と5歳の子どもがいる。鴨川は、子育てはしやすいと思っているが、子育てについては考えたこともなかったので、この機会に考えてみたい。

委：自衛隊にいたことがある。直接的に子育てをした経験は少ない。定年を迎えてから戻ってくることはあっても、働く場所が少ないために、大人になった子どもが帰って来づらい環境があると思う。自分も故郷には帰っていない。次の世代のために、子育て・育ちの環境を今の大人たちでしっかりと考えていきたい。

委：生活様式の多様化、コロナの影響などを考えると、今の子育て世代の人達は子育てしやすいのではないかと感じている。自身は間もなく子育てが終わろうとしているが、鴨川市は子育てがしやすい印象を持っている。子育てについては、子どもたちが鴨川はいい所で、鴨川のことを好きだからずっといたいと思ってもらえるような環境づくりを今集まっている大人たちが行っていかなくてはいけないのではないかと、この機会をもらったことで考えるようになった。

委：市役所で働いていた。現在は、環境課で非常勤の仕事をしている。5歳の孫と暮らしている。おじいちゃんとして学んでいることを提言できればと思う。

担：23歳、21歳、19歳と子どもが3人いる。皆さんの意見をご参考として、生涯学習課として今後、何かお役にたてることがないか、一緒に考えさせていただきたい。

担：曾呂地区で生まれ育ち、現在は主基地区に住んでいる。高校2年生の娘が一人いる。義父母には子育ての面でかなり助けられている。生涯学習課は、子どもから高齢者まで、皆さんの生活の中での学びを担当している。親の成長も子育てには大切なことと感じているので、生涯学習と子育てには関係性を感じている。

担：鴨川で生まれ育ち、現在は南房総市に住んでいる。24歳と大学4年生の2人の子どもがいる。子ども支援課は2年目。子育ては、小さい頃は手間がかかって、大きくなるとお金がかかるというのを実感している。

担：子どもが3人おり、孫も1人いる。孫は秋田に住んでいるので、年に数回しか会えない。20年近く前、少年野球を13年ほど教えていた経験がある。子ども支援課の前は9年生涯学習課にいたこともあり、子どものことに長い時間携わっている。

担：南房総市で生まれ、鴨川市に転居して12年が経つ。コロナの影響で、子どもたちも保護者の方にもご迷惑をかけたと思うが、教員も毎日学校を消毒してから帰路についている。新しい生活様式には厳しい側面もあると思うが、子どもたちが鴨川で育って良かった、鴨川で学んでよかったと思えるようにしたいと思う。

担：生まれも育ちも子育ても鴨川である。なので、鴨川のことを好きで、鴨川で子育て出来て良かったと思っている。現在の職に就く前は、小学校で10年以上教員をしていた。その折々で、色々な想いをもちながら今に至っている。最近の社会の変化には驚くばかりで、速度がどんどん速くなっていて、5年後、10年後の鴨川の子どもたちを取り巻く環境の想像がつかないが、夢を持って鴨川市の教育を皆さんと語り合いたい。

コ：子育て中、子育てが終わった、これから子育てをする、子育てはしたことがないという多様な皆さんが集まっている。それぞれの立場があるということが重要であり、子育て世代の方だけを集めたものでは、課題が限定的になったり、お悩み座談会のようなものになってしまう。世代を超えて、どのように自分たちが育ってきた、育ててもらったのかという観点や、愛着がどのように培われてきたのかなどが、地域の一番の特徴であったり、一番大事にしなければいけないところだと思う。

また、鴨川に住む皆が子どもたちに関わるということがあるので、鴨川のことを好きになるということもあると思う。こういったものを皆さんの自己紹介から感じることができて、大変嬉しく思っている。

だが、ご発言にもあったように、子育てだけでなく社会を取り巻く環境の変化が激しいのが現状であり、皆さんの生活にも大きく影響を与えていると思う。この変化に対応しつつ、鴨川の子育て子育て環境づくりに色々な視点からのご意見をいただきたい。

自身は、出身は東京だが、現在は環境が気に入って茨城県の守谷に住んでおり、東京に通勤している。東京の行政の仕方や子育て・教育環境と茨城は全く異なっている。どちらが良い悪いではなく、地域の環境や住んでいる人々、地勢・気候などが大きく影響していると感じている。東京を選べる選択肢がある中で、鴨川で子育てをするという選択をした方のご意見も聞けるとありがたい。また、世代を超えて伝えていくという観点から、東京では少なくなっている、孫育て・孫育ちのご意見もいただきたい。

コ：この先の進め方についてもお伝えしたい。

第2回・第3回は、皆さんの意見を発散する回になる。その中で、論点をピックアップして議論を深めていきたい。また、会議の中で言えなかったことなどは、改善提案シートというものを配布するので、そこにご記入いただきたい。

委：分科会からまたグループ分けをしてもいいのではないかと。この人数だと話すのが大変で意見も出にくいと思うが。

コ：原則として、分科会の中には小グループは設けずに進めていく。

各回、出席された方には必ず1回は発言してもらおうようにするのでよろしく願います。

P：次回は発散の回とあったが、今、自己紹介いただいた内容から広げていくことになるのか。

コ：その観点もあるが、今日質問をいただいた内容（市全体の子育て子育て環境にはどういったものがあるのか）に対し、担当課で用意できる資料があれば、そこもきっかけとして議論をしていきたいのでご用意をお願いします。また、既存のものに限らず「どういったものがあるといいか」という観点からも議論をしていきたい。

例えばだが、子育てしやすいという意見があったが「では、どういったところが子育てしやすいのか」など、掘り下げをしていくとより見えてくるものがあると思う。

次回の分科会に向けた準備

次回の分科会の目標

- 意見の発散の回とし、最終的に改善提案シートに記入する。

次回の分科会に向け準備する資料等

- 各担当課で行っている、子育て子育てに関わる事業の概要資料等を用意する。

備考（その他、記録すべき事項を適宜追加）

鴨川市住民協議会「第1回かもがわ市民会議」議事要旨

班	第4班（みんなで考える防災対策）
コーディネーター	高澤良英（市原市企画部長）
ナビゲーター	
説明担当者（自治体）	危機管理課（西宮係長、浅井主事）
日時	2020年7月26日（日） 15時00分から16時10分
場所	鴨川市役所4階 大会議室
その他	参加者数 22名 欠席者数 1名

趣旨・概要

自己紹介

- 1 名前
- 2 地区
- 3 テーマについて一言 心配なこと等

主要な論点

防災について（心配なこと/不安なこと）

- ・津波、地震、台風、停電、豪雨、土砂災害
- ・特に昨年に起きた台風15号や10月の豪雨について実体験を元に意見が上がった。
（水の問題、停電による情報の遮断等、高齢者や障害者への支援不足）

論点 防災とは何か

- ・事前準備と災害が起こってからの対応
- ・情報の伝達不足という意見が多かった。情報が伝わるためにはどう伝えたらよいか。
- ・有事の際にはアナログな情報提供が効果的ではないか（連絡網で市と区長の相互に情報を伝達しあう など）
- ・日常からの取り組み、日常から非常時を考える

論点 自助・公助・共助について

- ・消防団・区長等の地域コミュニティの利用
- ・災害時に人手不足、住民の支援が必要
- ・支援する側とされる側

論点 地域防災計画の見直しについて

- ・昨年度に発生した台風や大雨の検証結果に基づいて、地域防災計画の見直しを行う
- ・教訓を次に生かす
- ・どのくらいの災害で避難したら良いか

委：昨年の台風の際の広報に不満を持っている。市内でどこが停電しているかわからなかった。困っている人がいたとしても連絡ができず助けに行けなかった。

委：地元の消防団に属している。昨年の台風時は、自宅そっちのけで被害状況の把握のためなど、地域を巡回した。自宅では、情報を防災ラジオから得た。個別に見ると情報が届いていないところもあったので、地区ごとの防災無線があってもいいと感じた。

委：兵庫県西宮市出身で阪神大震災を経験した後、2004年に鴨川に来た。3.11ではボランティア活動で、大山小に避難所を設置した。行政からは、自助・共助・公助という言葉をよく聞くが、実際には避難所では職員の人員不足が発生する。自助・共助というと自分で頑張りなさいというイメージを持つと思うが、共助の部分では地域の自主的活動ができないか考えられればと思う。

委：10年位前に移住してきた。住んでいるマンションでは、地域の方たちと防災訓練などを行うが、のんびりしていてあまり集まらない。防災意識の低さに違和感を感じている。

コ：地元の方に伺いたいが、過去、鴨川は災害が多い所だったのか。それとも少ない所だったのか。

委：昨年の台風のような被害は、80年生きていて初めて経験したと言っている人がいると聞いた。

委：20年居住している。昨年の台風では電気・電話・水道、情報、携帯すべてダメになった。今初めて防災ラジオがあることを知った。陸の孤島になってしまうので、情報をなるべく早く提供してほしいと思っている。地域の人あまり災害のことを考えていない。

コ：ライフラインや道路など、地区が分断されてしまうのは大きな問題。

委：元々は千葉市民。5年前に夫の実家の鴨川に移住。現在も仕事の関係で週の半分は千葉市に通っている。独居の80代の母はネットなし、新聞もとらないので情報を得る手段がなく非常に心配。防災というと、高齢者の情報のこと（安否確認）が初めに気になるとこと。

委：市役所の近くに住んでいる。雨風が非常に強いときに、いつ避難をすべきかわからない。

コ：非難の判断のタイミングは非常に大事なポイントになる。

委：海岸の近くに住んでいるため、前回の災害時は公民館に避難した。市は地区内の波が上がる場所（曾呂川河口付近）直してくれない。

委：難病（ALS）患者で車イスを使っている。そもそも防災とは何かを考える必要がある。また、支援する側、される側の視点を持つことが重要だと思う。災害が起きた後の情報については課題があると思うが、前段階として、市は災害について日常から色々な情報を出している。自助の部分では、日常から情報を得る努力をすべき。

コ：防災とは何？というキーワードは非常に大事。色々な立場の方がいる中で、生活実感の意見を多く出してもらい、その中で何ができるのかを考えていきたい。

委：8年前に市川市から山の中の一軒家に移住してきた。鴨川の人には災害の怖さを知らないと感じている。災害時に地元の人が海に津波を見に行っていたと聞いて驚いた。学校が低い場所にあって、あり得ないと思う。

委：3.11の時、亀田病院の病棟にいた。帰れずに様々対応したが自己判断で21時に帰宅した。夫は漁師で舟を海に避難した。昨年の台風の際は、職場（病院）では様々な情報が得られたが、自宅に帰ると停電していて全く情報がない。組には入っていないが、地区の中でも情報共有がないことに課題があると思う。

コ：これから市の担当課、PT職員の方にも話を聞いていくが、住民協議会は行政対市民の場ではないことに十分留意していただきたい。

P：昨年の台風の際は、皆さんもそうだが自身も被災者となった状況の中で、お子さんを安全に預かるという保育所の運営に苦慮した記憶がある。

P：防災は、命を守るということが非常に大事だと思う。房州人はあばらが一本足りないと言われるが、昨年、大きな災害を初めて経験して、恐怖を感じた。防災を議論する上で、この「怖さ」を見直す必要があると感じている。

担：昨年の台風被害に関する検証をする台風被害復興室を経て、危機管理課に勤務している。そのため、実際に災害の場面で陣頭指揮を執った経験はないが、検証してみても自分なりに思うところもあり、頂いたご意見から改善を始めているところもある。そういった点について、皆さんと共有していきたい。

担：この4月から危機管理課に勤務し、昨年の台風の際は福祉部門におり、支援が必要な家庭を回っていた。生まれたばかりの子どもがいるため、ライフラインが止まってしまうことへの恐怖は人一倍あると思う。既に多く出ている、情報に関することは皆さんの意見を聞きながら、より良い改善につなげていきたい。

コ：担当課の方から、検証しているという話を頂いた。その結果は今年の防災対策にどのように反映するかという方向性はあるか。

担：検証結果をレポートにまとめて報告する。これに基づき、今年度、地域防災計画を見直す予定。

コ：地域防災計画という言葉聞いたことがある方は。（挙手3人）

災害対策基本法というものがあるが、この法律の凄いところは、阪神淡路大震災、東日本大震災と災害が起きる度に、法律を改正しているところにある。この法律改正に基づいて、国・県・市町村の防災対策の計画を作り直している。地域差はあるものの、日本は教訓を次に活かすことを丁寧に行っていると感じている。市として、この会議で出た意見、検証結果をもって、地域防災計画を見直す方向性だというご理解はいただきたい。

皆さんから出たキーワードの中で、情報の話は災害が起きると必ず出るもの。また、日常からの取り組みという意見には非常に共感できる。災害時は非常時だが、非常時に非常時のことを考えても、それは中々できない。そのため、日常で非常時を考えて行動することは非常に大事なこと。

もう一つ、良いキーワードは「防災って何」である。皆さんはどう答えるか。

担：「準備」だと思う。

コ：防災は、「災害」を「防ぐ」と書く。だが、災害は毎年起こり、今や全国で起こっている。なので、災害を防げるかということ、防げないと思う。例えば、記録的大雨は過去50年間で、日本だけ

で1.7倍増えているという。そして、この変化は皆さんも感じていると思う。地震もいつ起きるかわからない今、防災ではなく「減災」という言葉を使っている人達もいる。

47都道府県の県庁所在地の中で千葉市が80%以上の確率で大地震が起きると予測されている。一方、熊本で大地震が起きる確率は低いと予想されてきた。だが、実際には熊本で大地震が起きている。つまり「絶対」ということはない。なので、日常から私たちは大丈夫だということとは考えられない。

「危機感」というキーワードを頂いた。この言葉は、今日の中で一番大事だと思う。危機管理の場面でよく言われる「正常性のバイアス」という言葉がある。例えば、大きな災害や事件が起きた時に、我々はそれを真正面から受け取れない（バイアスがかかる）というもの。何故かというと、日常生活で予期せぬことが起きて、それら全てに反応していたら精神的に崩壊するからである。心の健康を保つため、自分に不利な情報が来た時に、その問題を過小評価するバイアスがかかる仕組みが自動的に内蔵されていると言われている。そのため、災害が起きた時に、自分は大丈夫だろうと思ってしまう方が被災されているという事実がある。この危機感をどう考えるかというのがキーになると感じた。

また、自助・共助・公助という観点で、行政に対する不満は言うべきと思う。また、それについて行政側もしっかりと考える必要がある。阪神淡路大震災で一番多かった死亡理由が倒壊による圧死だが、逆に、生き残った方で、公助によって倒壊した家具等に圧迫された状態から救出された方は2割弱であり、8割の方は近所の方や家族によって救出されている。つまり、大きな災害が発生すると、市役所だけでは皆さんの命を守ることが難しいのが事実である。この事実を基に、どうしたらよいかを冷静に考えることも大切だと思う。

他の方の意見を聞いて、良いと感じたり共感できたキーワードがあれば伺いたい。

委：ケースに応じた対応ができるようになるような防災訓練を定期的に行えばいいと感じた。

コ：訓練で出来ないことは非常時にも出来ないの、訓練は非常に大事である。皆さんが今まで出たことのある防災訓練で、問題点があれば伺いたい。

委：雨だと中止になることが不思議でならない。また、指定された校庭に集まって炊き出しと非常食を配って終わりになっている現状にも課題がある。集まってどうするのかを考えることが自助の一つに繋がるのではないかな。

コ：訓練がイベント化しているのではないかなと思う。毎年同じ想定で行っているのではないかな。

担：そのとおり。

コ：鴨川は比較的低位にある避難所が多いと思うが、災害の種類によって避難所は指定されているかな。

担：地域防災計画には記載をしている。

コ：皆さんは災害種別ごとに行く避難所を把握しているか。（ 挙手多数 ）

委：情報が伝わってこなかったという話があったので、情報が伝わるためにはどうすればいいかを考えたい。

どうやったら災害時に地域の組織を機能させられるかという着眼点で色々と考えている。行政からの情報を回すような仕組みや特定の場所に行けば情報が得られるという仕組みが必要かなと思う。

委：地区の中の公民館や神社など、みんなが来れるところに情報を張り出すのは一つの手と思う。

コ：情報はかなり大きなテーマで、行政側と市民側と両側面からどう伝えるか、コミュニティもキーになる。

委：少し観点が異なってしまうが、鴨川から天津に行くトンネルに電気がついていないので、台風の際など、非常に恐ろしい。逃げ道の確保という点においても重要なことと思う。これはどのようにしたら解決できるのか。

コ：地域の要望を聞く場がないからと推測した。そういった場はあるのか。

担：別の課が所管しているが、地区別懇談会がある。普段では区長等を通じて要望等を頂いており、市のできる範囲で対応している。

コ：市民の声を行政に反映する方法も共有化されていないので、これから共有していきたい。市からの情報を区長等を通じて皆さんにお伝えする流れと、その逆の流れの両方を考える必要があると思う。

委：情報のやり取りに関して、行政が全部に知らせるというのは100%不可能と思う。デジタルではなく、アナログで考えることも重要と感じた。

委：飲料水の分配についてはどうなっているのか。

担：県内の水道事業者と協定を結んでおり、被災していないエリアから応援が来るような体制になっている。

なお、災害時に備えて、最低3日間の水を備蓄してほしいとお願いしている。

コ：どの自治体も最低3日間というアナウンスをしている。これからは、具体的に何リットルといった情報の提供も必要になってくるのではと思う。

次回の分科会に向けた準備

次回の分科会の目標

今回で言い足りなかったこと、言いそびれたことの発散
若い世代の意見が少なかった。多様な意見を拾っていく。

次回の分科会に向け準備する資料等

鴨川市として実際にやったこと、改善点を確認する
他市の先進事例を紹介

備考（その他、記録すべき事項を適宜追加）

特になし